

大学奨学生面接 県出身者ら臨む

伊藤青少年育成奨学会

伊藤青少年育成奨学会
(田代久美子理事長)の2
022年度大学奨学生を決
める面接が16日、多治見市
十九田町のバロー文化ホー
ルで始まった。

奨学会はバローホールデ
ィングス創業者の故伊藤喜
美氏の個人資産の一部を元
に設立。00年度から、大学
に進学する県出身者や県内
在住者、県内大学への進学
者に年36万円の奨学金を給
付している。



面接に臨む大学進学希望者
＝多治見市十九田町、バロ
ー文化ホール

22年度は68人の応募があ
り、小論文などの1次選考

を通過した50人が、田代
理事長ら選考委員による
2次選考の面接に臨んだ。
面接は3日間に分けて行
い、内定者40人程度を選
ぶ予定。

奨学会によると、応募者
は例年100人前後だったが
が、本年度は3割ほど少な
く、新型コロナウイルス感
染拡大の影響が考えられる
という。

このほか、大学院生を対
象にした奨学制度には8人
の応募があり、全員が書面
審査で合格。奨学生はいず
れも理事会での最終選考を
経て決定する。

(箕浦田美子)